山村活性化支援交付金の活用事例一覧

令和５年３月

頁	都道府県名	市町村名	事業実施主体名	取組の概要	交付金 活用期間
1	北海道	今金町	今金町山村活性化地域協議会	規格外野菜を活用した特産品開発とまちづくり会社の設立	H27～H29
2	北海道	乙部町	乙部町	蜂蜜を活用した商品開発及び販路開拓	H29～R1
3	北海道	喜茂別町	喜茂別町	地域外への販売を意識した商品開発及び販路拡大	R1～R3
4	北海道	浦幌町	浦幌町ふるさと資源利活用推進地域協議会	若い力を未来につなげる地域一丸でのプロジェクト	R2～R4
5	岩手県	二戸市	二戸市	漆の安定供給、技術継承、販路拡大による産業づくり	H29～R1
6	岩手県	遠野市	遠野ブランド海外輸出協議会	遠野ブランド確立に向けた商品開発と海外市場への販路拡大	R1～R3
7	秋田県	大館市	十二所・長木地区山村活性化協議会	山菜を活用した新商品の開発、試験栽培、情報発信	H28～H30
8	山形県	西川町	西川町	山菜・きのこを活用した商品開発	H30～R2
9	福島県	天栄村	天栄村ブランド化推進協議会	天栄米、マカ等を活用した商品開発と地域イメージの構築	R1～R3
10	茨城県	城里町	城里町	イノシシの肉・皮を活用した加工品開発と体制づくり	H29～R1
11	栃木県	大田原市	大田原市里山ユニバーサル＆オーガニック農業推進協議会	地域伝統の唐辛子・茶を未来へ持続する農業へのイノベーション	R1～R3
12	群馬県	上野村	上野村	木材を活用した木工関係者による地域産業活性化	H30～R2
13	石川県	珠洲市	奥能登さいはて活性化協議会	奥能登でとれる地域資源を活かした商品開発	H30～R2
14	福井県	若狭町	若狭町	雑草と取扱われている山野草を活用した新商品開発	R1～R3
15	長野県	駒ヶ根市	駒ヶ根市	あんぽ柿を活用した新商品の開発	H28～H30
16	岐阜県	飛騨市	飛騨市	小径広葉樹を活用した新たな経済循環の創造	H29～R1
17	静岡県	静岡市	静岡市	地域に残る在来作物を軸とした魅力発信と新商品の開発	H28～H30
18	愛知県	豊田市	一般社団法人ウッディーラー豊田	木材を活用したグッズ製作や勉強会等開催による木材利用促進事業	H30～R2
19	愛知県	岡崎市	岡崎市ぬかたブランド協議会	地域資源（農産物・水等）を活用した商品開発と販売促進	H30～R2
20	滋賀県	東近江市	山村活性化協議会	特用作物・紫草を活用した化粧品開発と販路拡大	H27～H29
21	京都府	京都市	京都京北・農山村未来かがやき創生推進協議会	京北米を活用したブランド化の取組と消費拡大	H30～R2
22	兵庫県	新温泉町	岸田川流域地域協議会	耕作放棄地を活用したエゴマの有機栽培と商品開発	H28～H30
23	奈良県	黒滝村	黒滝村	伝統工芸の継承と新商品開発・ブランディング	R1～R3

山村活性化支援交付金の活用事例一覧

令和５年３月

頁	都道府県名	市町村名	事業実施主体名	取組の概要	交付金 活用期間
24	和歌山県	有田川町	有田川町	ぶどう山椒を活用した商品開発及び販路拡大	R2～R4
25	島根県	浜田市	浜田地域広葉樹活用協議会	広葉樹の有効活用による山村活性化	R1～R3
26	広島県	竹原市	田万里「有機あぶらの里」プロジェクト協議会	大豆、米を活用した商品開発による地域活性化	R1～R3
27	徳島県	那賀町	木頭すぎバイオマス利活用推進協議会	木頭すぎを活用した商品開発をメーカーと共同実施	H27～H29
28	高知県	津野町	ツノール商品開発推進協議会	里芋を活用した特産品の開発	H30～R2
29	熊本県	あさぎり町	あさぎり町	大豆や新規作物ビーツを活用した商品開発と販路拡大	H30～R2
30	大分県	佐伯市	宇目地域活性化協議会	クリ、獣皮（鹿皮）を活用した商品開発及び販路開拓	H30～R2
31	宮崎県	小林市	小林市	栗、柚子を活用した商品開発とブランド化	H28～H30
32	宮崎県	美郷町	美郷町を栗で元気にする協議会	伝統の美郷栗を活用した地域活性化	R1～R3

（山村活性化支援交付金）規格外野菜を活用した特産品開発とまちづくり会社の設立　【北海道今金町（いまかねちょう）】

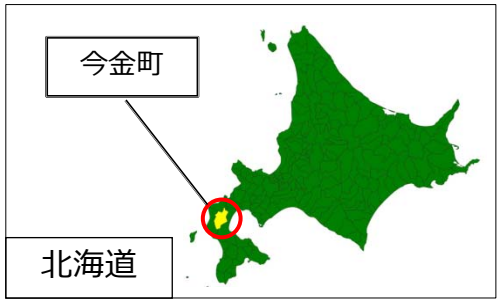
取組のポイント

◆規格外野菜を活用した特産品の開発を行うとともに、流通拡大に向けて首都圏での販売促進活動に取り組み。

◆地域の課題解決に向けた組織づくりとして「まちづくり会社」を設立。町内養護学校の卒業生を中心に障がい者雇用の受け皿としての役割を担うとともに、農繁期の作業請負等により農業の担い手不足解消に貢献。農福連携事業により整備した拠点施設（農産物加工場）の管理・運営を行うなど、安定的かつ一定数の通年雇用を目指している。

地区の概要

◆ 位置
北海道瀬棚郡今金町



◆ 活用した地域資源
規格外野菜、観光資源

◆ 事業実施主体
今金町山村活性化地域協議会

◆ 主な取組団体等
今金町、今金町商工会、
ＪＡ、観光協会、福祉施設

◆ 事業実施期間
H27～H29

取組の特色

地域資源の付加価値向上や消費拡大等の取組

◆未利用資源であった規格外野菜（馬鈴薯）を活用して特産品を開発。ブランド化（KING OF 男爵）を図り販売を促進

◆首都圏において、「今金町と特産品」のPRを実施し認知度アップ。商店会との交流事業にも取り組み

【特産品の開発】
（今金男しゃくコロッケ）

【東京都中野区の商店会と連携協定を締結】

地域資源を活用するための組織づくり等

◆多様な人材と一緒に地域課題を解決するまちづくり会社「一般社団法人ｉ･スマイル」を立ち上げ（アイ）

◆農繁期だけでなく年間を通して働くことができるよう、農福連携事業を活用し農産物加工場を開設（ｉ･スマイルが運営）

【まちづくり会社を設立し障がい者雇用を創出】

【農産物加工場】
（町内の休眠施設を改修）

取組の成果（取組前 → Ｒ１実績）

◆障がい者雇用や地域活性化に向けた母体となる組織の立ち上げ（一般社団法人ｉ･スマイル）

◆町内における高齢者と障がい者の雇用人数　389名　→　400人（＋11人）

◆農産物の売上額（販売１戸あたり）　12,270千円　→　15,280千円　※対前比125%

（山村活性化支援交付金）蜂蜜を活用した商品開発及び販路開拓

【北海道乙部町（おとべちょう）】

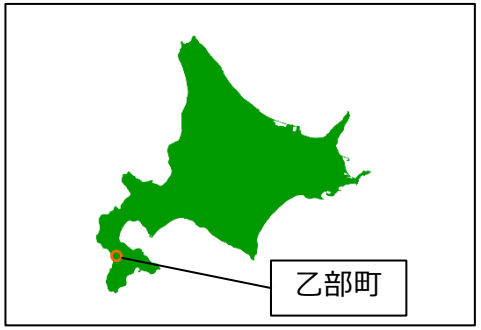
取組のポイント

◆人気はあるものの、収獲期間が短く収量が少ない蜂蜜に着目し、樹木の群生地の分布マップの作製や、蜜源となる植物の試験栽培などを行い、収穫期間及び収量の増加に取り組み。

◆農薬の影響を受けにくい採蜜場所にまでこだわった点などをストーリーとしてWEBサイトやパンフレットで紹介。各地の物産展や商談会への出展、ネットショップの展開などで地域外へ販路を拡大し売上げが増加。

地区の概要

◆ 位置
北海道爾志郡乙部町



◆ 活用した地域資源
蜂蜜

◆ 事業実施主体
乙部町

◆ 主な取組団体等
魚つきの森づくり協議会

◆ 事業実施期間
H29～R1

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆遊休農地を活用し、蜜源として人気の高いクローバーのほか、養蜂家のアドバイス等からヘアリーベッチの試験栽培を実施

◆商品展開を瓶詰に加え、使い切りパウチに広げるとともに、ロゴを作成し高級感のあるブランドイメージを構築

OTOBEE
HOKKAIDO OTOBE

【ロゴ作成】

【新商品開発】
（おとべのはちみつ10ｇ×30個）

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆物産展や商談会では、単に試食や販売だけではなくアンケートを実施し、ターゲットや商品企画に反映

◆ターゲットを絞ったSNS広告やネット通販の活用により、地域外への売上げが増加

【アンケートの様子】
（札幌　赤レンガテラス前）

【SNS広告】

取組の成果

◆収量･収穫期間　約1,400kg（H29.5月下旬～7月上旬）→ 約3,100kg（R1.5月下旬～9月下旬）

◆販売商品数　３品（取組前）→ ８品（Ｒ１）※おとべのはちみつ（ソバ･百花･クローバー等）、蜂蜜入り煮豆等

◆売上額　670万円（取組前）→ 780万円（H30）→ 970万円（Ｒ１）

（山村活性化支援交付金）地域外への販売を意識した商品開発及び販路拡大　【北海道喜茂別町（きもべつ）】

取組のポイント

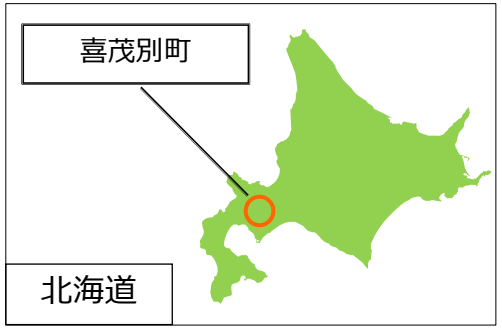
◆商品開発のスタート時より地域外への販売を強く意識して取組

◆販路拡大に向け道内各種イベントの実践販売や商談会に参加し、バイヤーや最終消費者の反応を確認

◆全国規模の商談会に出展し、看板商品が新商品開発に関するコンテストにて高評価（64品中３位）獲得。これを契機として地域外への販路開拓に成功

地区の概要

◆ 位置
北海道喜茂別町



◆ 活用した地域資源
馬鈴薯、コーン、アスパラガス

◆ 事業実施主体
喜茂別町

◆ 主な取組団体等
きもべつ観光協会、
商工会、農業協同組合

◆ 事業実施期間
R1～R3

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆商品開発の検討に向け、イベント等でアンケート実施。消費者の声から開発商品のアイディア形成（看板商品を馬鈴薯商品に設定）

◆町外への販売のため日持ちを良くする製造手法等採用（真空フライヤ・レトルト活用等）

【看板商品】
（じゃがちょこっと）

【ポテトスープ】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆町内外のイベント・商談会での消費者・バイヤー等の反応から、販売戦略を検討

◆ 「第29回グルメ＆ダイニングスタイルショー春2021」で開催されたコンテストでの高評価を契機に、道内外空港売店などの販路獲得

【商談会の参加】
（東京ビッグサイト）

【空港での販売】

取組の成果

◆特産品を活用した新商品の開発　４品（じゃがちょこっと、じゃがいもスープ　等）

◆コンテスト後の販売額　1,097千円（R3.7～12実績（6ヶ月間）、「じゃがちょこっと」のみ）

◆本事業の開発商品を含む地域商品の販売額　4,070千円（H30実績）→　6,450千円（R２実績）

（山村活性化支援交付金）
若い力を未来につなげる地域一丸でのプロジェクト（ハマナス化粧水、野菜加工品、体験ツアー）

【北海道浦幌町（旧浦幌村）】

取組のポイント

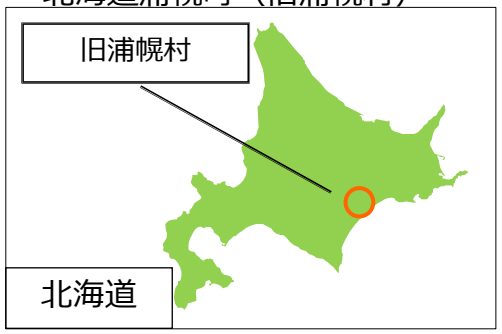
◆子ども達が夢と希望を抱けるまちを目指す「うらほろスタイル」の考えをベースに、地域の親子との関わりによる商品開発や若手農家らの起業などに発展

◆町の花「ハマナス」を使った化粧品、地域野菜の「白花豆・人参」等を使った加工商品の開発及び販売促進

◆この地域の魅力を体験できる付加価値を付けた観光ツアーを、地域のワークショップを通じて企画し、開催

地区の概要

◆ 位置
北海道浦幌町（旧浦幌村）



◆ 活用した地域資源
ハマナス、地域野菜、
野鳥（ﾊﾞｰﾄﾞｳｫｯﾁﾝｸﾞ） 等

◆ 事業実施主体
浦幌町ふるさと資源利活用推進地域協議会

◆ 主な取組団体等
㈱ciokay（化粧品販売業者）
㈱FF工房（食品加工業者）
浦幌町、観光協会 等

◆ 事業実施期間
R２～R４

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆開発商品(化粧品)のパッケージは親子写生会の絵を基にしたデザインを採用

◆若手農業者らで、地域野菜の加工食品開発を食の専門家を招聘して進めつつ、開発商品の製造・流通・販売を担う新会社を設立

◆宿泊施設開設に併せて地域でWS開催。農作業、林業体験や野鳥観察ツアーを企画・開催

【親子写生会】

【地域野菜を使った商品】
（白花豆・人参・馬鈴薯）

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆SNS・専門誌などで広く商品やツアーを紹介

◆販売サイトの構築や東京で行われた商談会に参加し新規の顧客を獲得

◆全身化粧水はサスティナブルコスメアワード2021 審査員賞 受賞し販売額の向上に貢献

【体験ツアーの広報】

【受賞した化粧水】

取組の成果

◆地域資源を活用した商品の開発　６品（全身化粧水、白花豆のスープ、ニンジンのピューレ 等）

◆化粧品、観光・体験ツアーの販売額　8,900千円（R１）→　15,550千円（R３）※対前比175%

◆体験・観光ツアー及び新規開設施設の宿泊客　20名（R１）→　550名（R３）※対前比2750%

（山村活性化支援交付金）「漆」の安定供給、技術継承、販路拡大による産業づくり　【岩手県二戸市（にのへし）】

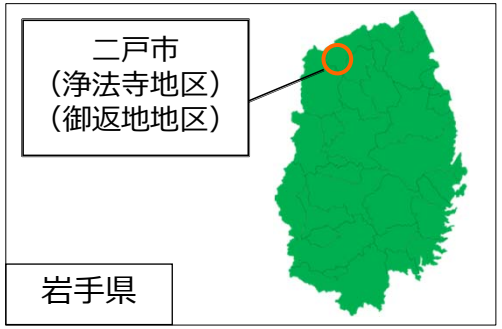
取組のポイント

◆日本で唯一広大な漆林を有する地域であり、国産漆の需要が高まる中、漆原木の資源調査、計画的な植栽・適切な管理方法等の検証を行い、漆の安定供給に向けた取組を実施。

◆漆関連産業の担い手（漆掻き職人や塗師、木地師等）の育成を行うとともに、文化財以外の需要掘り起こしのため、漆の木の活用や漆器等の商品開発、浄法寺漆のブランド確立、販路の拡大に取り組んだ。

地区の概要

◆ 位置
岩手県二戸市



◆ 活用した地域資源
漆

◆ 事業実施主体
二戸市

◆ 主な取組団体等
二戸市、浄安森林組合、
岩手県浄法寺漆生産組合 等

◆ 事業実施期間
H29～R元

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆漆原木の資源調査を行うとともに、安定的な生産に向け、苗栽培試験、モデル林での植栽等を行い、生育状況や管理方法を検証

◆漆器の生産体制構築や技術伝承のため、木地加工技術等の研修、漆掻きのマニュアル作成を実施

【LED光源による苗の生育調査】

【木地工房での研修】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆市内での漆の体験イベントや首都圏等での展示実演販売を通じて、漆器の販路拡大に取組

◆漆の普及啓発のためのパンフレットを作成

【イベント展示のようす】
（新宿：よこぐも神楽坂）

【浄法寺漆の小さな伝記】
（パンフレット）

取組の成果（取組前 → 取組後）

◆漆出荷量　935kg　→　1,487kg（R1実績）※対前比159%

◆漆製品販売額　1,700万円　→　2,540万円（R1実績）※対前比149%

◆漆関連産業の担い手の増加（木地師１名、塗師２名（市内の漆器展示・販売施設））

（山村活性化支援交付金）
遠野ブランド確立に向けた商品開発と海外市場への販路拡大

【岩手県遠野市（旧上郷村、旧宮守村）】

取組のポイント

◆牛乳を活用したスィーツや乳製品及び牛肉の加工食品の商品開発

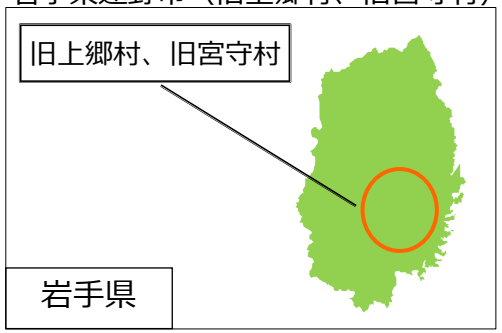
◆南部赤カブ等の伝統野菜・ホウレンソウ・香辛野菜の安定栽培による増産と加工商品開発で、農業の6次産業化実現

◆国内のみならず海外でも遠野産商品の認知度向上と販路獲得を目指し、販売戦略検討や商談実施

地区の概要

◆ 位置

岩手県遠野市（旧上郷村、旧宮守村）



◆ 活用した地域資源

牛乳、伝統野菜、ホウレンソウ、香辛野菜、牛肉

◆ 事業実施主体

遠野ブランド海外輸出協議会

◆ 主な取組団体等

(有）多田自然農場（乳製品製造・販売）

(有）門崎畜産（牛肉加工・販売製造）、

農業者 等

◆ 事業実施期間

R1～R3

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆先進地視察、海外の市場調査、研修会を通して、海外での販売を意識したスィーツや牛肉の加工食品等の商品開発、食味向上のための急速冷凍試験を実施

◆ホウレンソウの越冬試験栽培や伝統野菜の再生に向けた試験栽培や商品開発

【乳製品の開発】

【伝統野菜を活用した商品開発】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆国内向けの販売促進には、東京他各地で複数の展示商談会への参加や試食会の開催

◆海外向けには、中国市場の現状について講師を招いての講演等の実施、東京でのアメリカ・中国向け商談会等への参加

【東京での商談会参加】

【海外輸出商品展示会】

取組の成果

◆海外輸出金額　1,000万円（H30実績）→2,800万円（R3実績）

◆商品開発数　0品（H30実績）→累計45品（乳製品関連15品、牛肉関連13品、伝統・香辛野菜関連17品）（R3実績）

◆農産物（ホウレンソウ）生産量　1,760kg（H30実績）→2,500kg（R3実績）

（山村活性化支援交付金）山菜を活用した新商品の開発、試験栽培、情報発信

【秋田県大館市（おおだてし）】

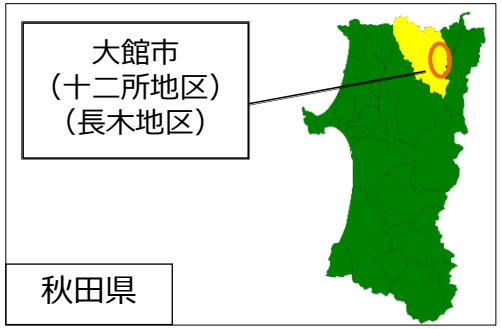
取組のポイント

◆地域内に多く自生している山菜（フキ、タケノコ等）や山野草を活用した加工品や薬膳料理の開発に取り組み。女子栄養大学や料理講師など専門家の指導を受けながら、知識の習得、技術の向上を図った。

◆山菜とそれに関わる食をきっかけに、地域ぐるみで新しい産業を創ることを目指し、山菜や本協議会の取組について紹介するWebサイト「山菜せんせい（http://sansai-sensei.com）」を立ち上げて情報を発信。

地区の概要

◆ 位置
秋田県大館市



◆ 活用した地域資源
山菜

◆ 事業実施主体
十二所・長木地区（じゅうにしょ・ながきちく）
山村活性化協議会

◆ 主な取組団体等
陽気な母さんの店

◆ 事業実施期間
H28～H30

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆山菜の分布・生育状況のほか、収穫時期、自家消費量、直売所での販売量を調査

◆郷土の伝統的な保存食を基本にしたレシピや、滋養を活かした薬膳料理等を考案し、新商品のパッケージデザインを開発

【新商品の開発】
（山菜まんじゅう等）

【レシピ検証のようす】
（女子栄養大学）

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆旬の短い山の味わいを安定的に供給するために、耕作放棄地を活用した山菜（ウド、フキ、タラノメ等）の試験栽培にも取組

◆Webを活用した情報発信、首都圏アンテナショップ等での山菜商品の試食販売を実施

【耕作放棄地での試験栽培】
（25～30a）

【Webサイトによる発信】
（山菜せんせい）

取組の成果（取組前 → 取組後）

◆山菜を活用した新商品の開発　６品（山菜まんじゅう、きゃらぶき、ばっけ味噌 等）

◆直売所における山菜加工品販売額　０円　→　91万円（H30実績）　→　93万円（R1実績）

◆山菜加工品の新たな販路を開拓し継続的に出荷（県内の農家民宿、東京都内のレストラン等）

（山村活性化支援交付金）山菜・きのこを活用した商品開発

【山形県西川町（にしかわ）】

取組のポイント

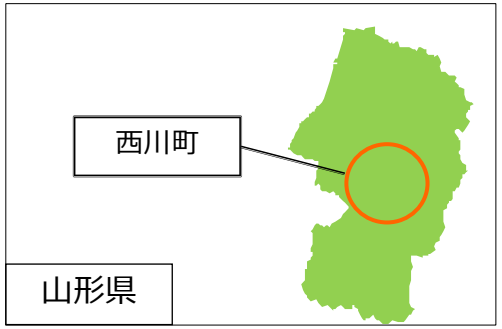
◆町の特産である山菜やきのこの生産量の確保（栽培実験や町民等を対象にした栽培知識、技術の取得のための研修実施）とこれらを加工した新商品開発

◆直売所やイベント等での山菜やきのこの開発商品の販売促進等により直売所等での販売額増加

◆未利用資源であった地ビール搾りかすの有効活用による商品開発

地区の概要

◆ 位置
山形県西村山郡西川町



◆ 活用した地域資源
山菜、きのこ、地ビール搾りかす（未利用資源）

◆ 事業実施主体
西川町

◆ 主な取組団体等
JAさがえ西村山西川支所
西川町飲食店会　等

◆ 事業実施期間
H30～R2

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆露地での株養成等を行い、タラノメの促成栽培実験や耕作放棄地等を再活用するためのネマガリダケ等の試験的な栽培を検討

◆市場調査を行い、消費者のニーズにあった山菜やきのこの加工商品を開発

【きのこ栽培講習会】

【山菜・きのこ栽培推進】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆県内・仙台圏のイベントでの販売促進PR活動、飲食・小売業者等向けにメニュー開発

◆廃棄されていた地ビール搾りかすを豚の飼料にして、地ビール豚を開発。この加工品（ハム等）を道の駅や町内飲食店等で販売

【飲食メニューの開発】

【商品開発（月山筍パスタ）】

取組の成果

◆山菜きのこ関連の新商品数　13品（わらびを使用した漬物、筍の粉末を煉り込んだパスタ等）

◆地ビール豚加工品　３品（ハム、ソーセージ、味噌漬け肉）

◆山菜きのこ直売所・道の駅販売額　25,012千円（H29実績）　→　29,241千円（R2実績）

（山村活性化支援交付金）
天栄米、マカ等を活用した商品開発と地域イメージの構築

【福島県天栄村（旧大里村、旧牧本村、旧湯本村）】
（てんえい　おおさと　まきもと　ゆもと）

取組のポイント

◆「米と野菜と健康が主役の地域活性」をコンセプトにした地域イメージの構築と商品開発

◆高単価・省力栽培可能な「マカ」を新しい特産品として導入。栽培技術向上・生産量確保のための体制づくり等実施

◆天栄米、マカ等を活用した商品を開発し、東京の販売会への出展やECサイト等を活用した販路拡大

地区の概要

◆ 位置
福島県岩瀬郡天栄村
（旧大里村、旧牧本村、旧湯本村）

◆ 活用した地域資源
天栄米、マカ　等

◆ 事業実施主体
天栄村ブランド化推進協議会

◆ 主な取組団体等
天栄村農業委員会、天栄村
夢みなみ農業協同組合　等

◆ 事業実施期間
R1～R3

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆マカの生産能力向上のため、講師を招いて栽培指導会を開き、栽培技術を習得

◆地域資源の消費拡大と生産者の収益向上のため、天栄米、マカ等を活用した商品を多数開発

【マカ栽培指導会】

【商品開発：天栄米マカ甘酒、天栄マカフリフリ（スパイス）】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆統一したデザインにより、リーフレット等を作成し、地域ブランドイメージ構築

◆ECサイト等による商品紹介、東京の販売会（rooms）等への参加を通して販路拡大

【ブランドロゴとリーフレット】

【rooms43出展】

取組の成果

◆商品開発数	0品目（H30実績）→	17品目（R3実績）
◆道の駅2か所における開発商品販売額	0千円（H30実績）→	5,480千円（R3実績）
◆マカ栽培面積の延べ面積	0a（H30実績）→	14a（R3実績）

（山村活性化支援交付金）イノシシの肉・皮を活用した加工品開発と体制づくり

【茨城県城里町（しろさとまち）】

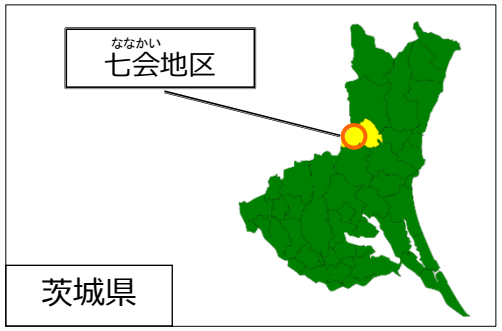
取組のポイント

◆農作物への獣害対策に伴い捕獲頭数が増加傾向にあるイノシシの資源利用を進めるため、食肉加工商品及び皮加工商品の開発に取り組むとともに、捕獲から加工までの体制づくりを推進。

◆地元猟友会に加え、東京農業大学や狩猟免許等を取得した地域おこし協力隊員とも連携し、ワークショップ形式による商品開発や町内施設におけるジビエ料理の試験提供など、地産地消に向けた消費拡大に取り組み。

地区の概要

◆ 位置
茨城県城里町



◆ 活用した地域資源
イノシシ肉及び皮

◆ 事業実施主体
城里町

◆ 主な取組団体等
猟友会、地域おこし協力隊、
東京農大農山村支援センター

◆ 事業実施期間
H29～R1

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆駆除ではなく利用に主眼を置いた、捕獲・集荷・加工にかかる体制づくりを地域住民とワークショップ形式で検討

◆解体時に捨てられていたイノシシ皮に着目し、食肉に加えて皮加工商品の開発を実施

【ワークショップ方式で組織体制づくりを検討】

【外部専門家による皮剥ぎ実演講習会】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆「城里ジビエフェア」を開催し、イノシシ肉料理の試験販売や革製品のクラフト教室による情報発信・消費者の意識調査を実施

◆食肉加工処理施設を関連事業により整備することにより、町内での一貫した加工体制の構築・雇用創出を目指す（CSF終息後）

【町内施設やキャンプ場におけるPR活動】

【イノシシ皮の革製品】（ペンケース、キーパー封筒）

取組の成果

◆ジビエメニューの開発　８品（生姜焼き、シシ汁、ピザ、BBQ 等）※町内施設､キャンプ場等で提供

◆皮加工商品の開発　10品（財布、ペンケース、ネームケース、名刺入、キーパー封筒 等）

◆城里町の地域レザーブランド「サングリエ」の誕生（元地域おこし協力隊員による起業）

（山村活性化支援交付金）
地域伝統の唐辛子・茶を未来へ持続する農業へのイノベーション

【栃木県大田原市（旧須賀川村）】

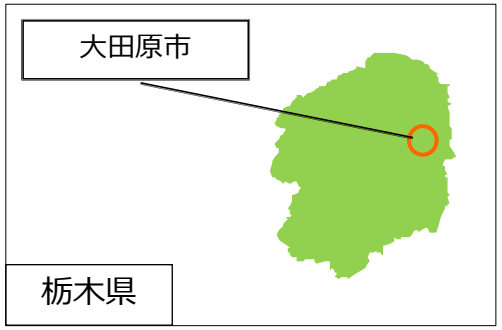
取組のポイント

◆地域の伝統農産品である「お茶」、「唐辛子」の栽培、加工、販売の革新による、次世代に継承し得る農業への再構築

◆商品の販売だけでなく、生産プロセスのワークショップを通じて、里山の農業、地域の歴史、直面する地域課題を多くの人々に知ってもらうと共に地域課題の解決への参加による事業ビジョンの共有、ファンの獲得を推進

地区の概要

◆ 位置
栃木県大田原市（旧須賀川村）



◆ 活用した地域資源
トウガラシ、茶

◆ 事業実施主体
大田原市里山ユニバーサル＆オーガニック農業推進協議会

◆ 主な取組団体等
農業生産法人、製茶事業者、食品加工事業者、就労継続支援施設、大田原市

◆ 事業実施期間
Ｒ１～Ｒ３

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆耕作放棄地の活用や福祉との連携による大田原農業の活性化の可能性を調査

◆市場調査、先進地視察により、北限の茶、唐辛子の商品開発とブランド化を検討

【商品開発①】
(自然栽培三年晩茶POP)

【商品開発②】
(唐辛子加工品　2商品)

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆専門家の指導の下、ワークショップを通じ、自然栽培・三年晩茶の製造・試作

◆地元飲食店と連携したテストマーケティングの実施等を踏まえ、唐辛子加工品(2商品)と家食レシピを開発

◆地元飲食店や協議会ウェブサイトを通じ、情報発信・販売促進

【地元飲食店で三年晩茶のテストマーケティング】

【協議会ウェブサイト
（ＥＣの展開）】

取組の成果

◆茶、唐辛子を活用した新商品の開発　0品(実施前) → 9品(自然栽培・三年晩茶、あまから「日光とうがらし醤油漬け」、うまから「国産ハラペーニョピクルス」、家食用唐辛子レシピ6種)

◆唐辛子及び加工品販売額　０千円(実施前)　→　710千円(Ｒ３実績)

◆就労継続支援施設における障がい者の雇用数　0人（実施前）→ 10人（一般社団法人　無邪気）

（山村活性化支援交付金）木材を活用した木工関係者による地域産業活性化

【群馬県上野村（うえのむら）】

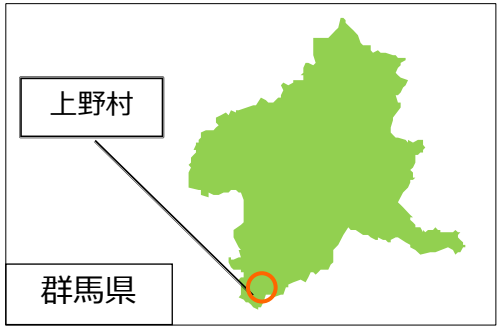
取組のポイント

◆上野村の豊富な森林資源の活用と木工業の活性化を目指して立ち上げたプロジェクトチーム「上野村木工」を中心に、新商品の開発や木工品のPR、販売促進を目的としたクラフトイベントに出展

◆後継者不足に悩む木工職人の課題解決に向けた木工技術研修生の受け入れによる将来の担い手確保

地区の概要

◆ 位置
群馬県上野村



◆ 活用した地域資源
上野村産木材（杉、シオジ等）

◆ 事業実施主体
上野村

◆ 主な取組団体等
上野森林組合、木工家、上野村商工会、上野村産業情報センター（観光案内、イベント企画）

◆ 事業実施期間
H30～R２

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆ 村産材の杉を活用したスタッキングスツール等のデザイン検討・商品開発や村有施設の改修事業など実施

◆後継者不足に悩む木工職人の人材育成・確保

【木工関係者による村有施設（森林科学館）の改修】

【木工技術研修生の受け入れによる担い手を確保】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆上野村木工による行政機関や企業等を対象にした営業活動によりスツールや誕生祝品等の販路拡大

◆新規顧客を獲得するための村内外でのイベント等に参加。木工イベントではクラフト体験や木工工芸品の展示販売を実施

【試作品の検討】（スタッキングスツール）

【木工イベント開催風景】（スマーク伊勢崎）

取組の成果

◆村産材（杉、シオジ等）活用新商品の開発等　5品（ｽﾀｯｷﾝｸﾞｽﾂｰﾙ１品、誕生祝い品３品、建物のリニューアル１件 ）

◆木工イベント・営業等での木材・木工品の販売額　2,000千円（H29実績）→ 4,867千円（R2実績）
※対前比243%

（山村活性化支援交付金）奥能登でとれる地域資源を活かした商品開発　【石川県珠洲市（すずし）】

取組のポイント

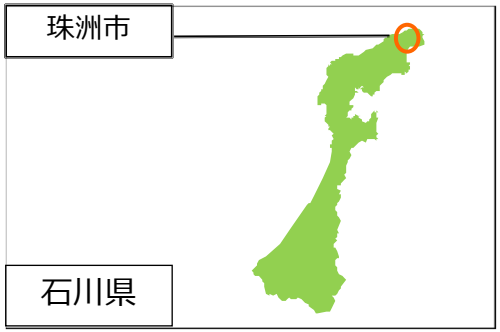
◆能登半島最端部で育まれた地域資源・技術・文化を活かした独自の商品開発に取り組む 「PROJECT SUZU」を始動

◆「PROJECT SUZU」の統一ロゴ使用による差別化を図るとともに、ブランド名を冠した製品の高品質化・品質統一のため、製造技術を地域の事業者に無償開示

◆地元酒米を使用した清酒のブランド化により販売量増加。これにより地域農業者による酒米の作付面積拡大

地区の概要

◆ 位置
石川県珠洲市



◆ 活用した地域資源
酒米、酒粕、塩、ハーブ等

◆ 事業実施主体
奥能登さいはて活性化協議会

◆ 主な取組団体等
酒造会社、菓子店、カフェ
加工品製造会社　等

◆ 事業実施期間
H30～R 2

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆地域資源（酒米、酒粕、塩、ハーブ等）を活用した漬物、焼き菓子、石鹸等の商品開発

◆開発製造技術を地域事業者に無償提供し、地域ブランド製品の高品質化・品質統一を図る

◆協議会による酒造会社と農家間の直接取引の枠組構築により、酒造会社における地元産酒米にプレミアム付与（酒米生産農家からの買取価格に反映）

【酒粕を使用した石鹸】

【清酒「MADE In SUZU」】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆ブランドのロゴ等を統一。品質統一とあわせ、ブランドイメージを確立・発信

◆県内外で開催された展示会に出展したことを契機に、県内カフェで提供される焼き菓子への採用や地元イベントへ依頼出店

【ブランドイメージ】
「PROJECT　SUZU」

【展示会】

取組の成果

◆商品の販売額　0円（H29）→　833千円（R2）

◆酒米の耕作面積　59千㎡（H29）→　69千㎡（R2）

◆開発商品（販売商品）数　0品（H29）→　14品　（R2）（清酒、漬物、焼き菓子、石鹸 等）

（山村活性化支援交付金）
雑草と取扱われている山野草を活用した新商品開発

【福井県若狭町（旧熊川村）】

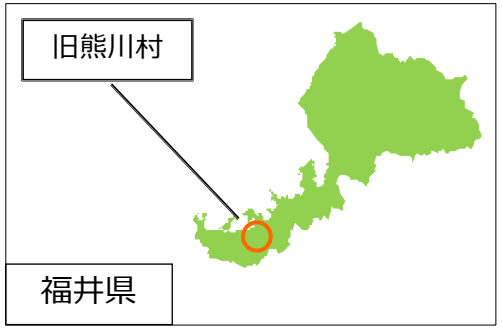
取組のポイント

◆熊川村は若狭と京都を結ぶ旧鯖街道の宿場（熊川宿）にあり、歴史と食文化の往来地点として栄え、日本遺産として指定されているが、特産商品に乏しい状況。地元の若手経営者らの意見を取り入れながら特産品づくりの検討を開始

◆地域の山野草は、近年、住民等からは雑草として認識され有効活用がされていなかったが、江戸時代には葛産地として京都で高い評価を受けていたことを想起。葛をはじめ地域内の山野草の価値・可能性を見直し、特産品を開発

地区の概要

◆ 位置
福井県若狭町（旧熊川村）



◆ 活用した地域資源
葛（花・葉・蔓・根）
オオバコ

◆ 事業実施主体
若狭町（観光未来創造課）

◆ 主な取組団体等
熊川葛振興会（野草採取、加工）
株式会社デキタ（商品開発、PR）
など

◆ 事業実施期間
R元～R３

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆商品化の検討のため、ワークショップ形式による試作検討会を実施

◆薬事法令に準拠した成分分析検査を実施し、薬効に係る記載内容を精査しつつ、伝統食材である点をPRできるパッケージデザインを検討・採用

【色、味などを考慮し焙煎法などを検討（くずの葉茶）】

【京都帝絵、江戸判じ絵などを用いて伝統をアピール（くず飴）】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆若狭町主催「若狭三方五湖ツーデーマーチ」（県内外約3,000名参加R4.5.21～22）において「くず飴」の試供品とパンフレットを渡しPR

【スタート地点でサンプルを配布、物販ブースで販売を展開】

◆吹田産業フェア（大阪府吹田市R4.6.4~5）に若狭町ブースを出展し、都市部に対してPRを実施
※来場者数約13,000人（2日間）

◆令和４年からふるさと納税返礼品として登録。また、同年、独自ECサイトでも販売を開始

取組の成果

◆山野草を活用した新商品の開発　７品（うち、現在販売品目：くずの葉茶、くず飴）

◆開発商品の新規取り扱い店舗数　0件→8件(Ｒ４)（道の駅「若狭熊川宿」、直売所「たいしたもんや」 ほか）

◆山野草採取の雇用数　０人→３人（株式会社「デキタ」）

（山村活性化支援交付金）「あんぽ柿」を活用した新商品の開発

【長野県駒ヶ根市（こまがねし）】

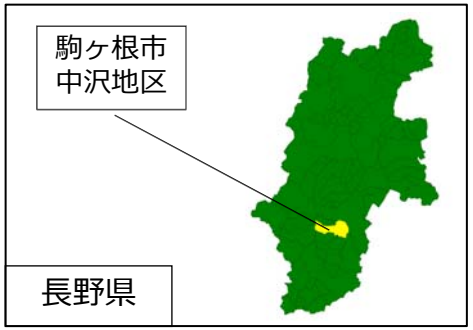
取組のポイント

◆耕作放棄地となりうる圃場へ新植した柿が収穫できるようになったが、地域内の販路では限界があることから、商工業者と連携し加工品の開発を行うとともに、都市部への販路拡大に取組。

◆首都圏等で行われる全国規模の商談会や各地のマルシェへ継続して出展を行い、バイヤーとの商談経験を重ねることで成約数が増加し、地域外への販売促進に繋がった。

地区の概要

◆ 位置
長野県駒ヶ根市



◆ 活用した地域資源
ひらたねなし柿（あんぽ柿）

◆ 事業実施主体
駒ヶ根市

◆ 主な取組団体等
竜東あんぽ柿研究会ほか

◆ 事業実施期間
H28～H30

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆地域内には耕作放棄地対策として植栽された柿畑が多く存在し、収量が年々増加

◆商工業者と連携し、規格外品の柿も有効利用できる加工商品の開発に着手

【地区内の柿畑】

【あんぽ柿ジェラート】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆各地のマルシェ等へ出展し、試食販売・商品PRを行うとともに、販路拡大のため首都圏等で行われる大規模商談会へ参加

◆商談会で好評だった「あんぽ柿ジェラート」をカップアイスとして新たに商品化

【試食販売のようす】
（青山ファーマーズマーケット）

【大規模商談会への参加】
（幕張メッセ）

取組の成果（取組前 → H30実績）

◆あんぽ柿を活用した新商品の開発　0品 → 6品（ジェラート、フロマージュ等）

◆商談会におけるバイヤーとの成約数　0社 → 7社（卸売業、カタログギフト業等）

◆あんぽ柿関連商品の販売額　500千円 → 2,760千円　※対前比552%

（山村活性化支援交付金）小径広葉樹を活用した新たな経済循環の創造　【岐阜県飛騨（ひだし）市】

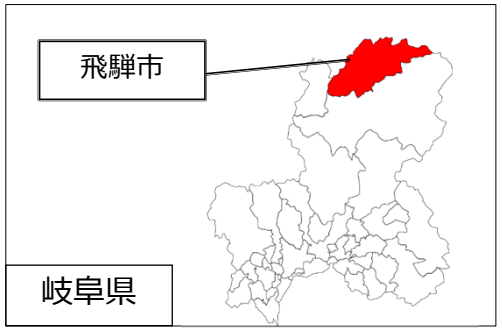
取組のポイント

◆地域資源としての森林と広葉樹に再度光を当て、伐採から製材、商品開発、製造・販売までを一貫して地域内で行う「広葉樹活用プラットホーム」の構築に向けて、広葉樹材のストック確保、人材育成、商品開発等を実施。

◆広葉樹材を使った付加価値の高い製品を開発・販売。商品開発段階からクリエイター等の外部人材と積極的な関係性を築くことで受注機会を創出するとともに、独自性の高い取組を全国へ発信し、交流・関係人口の増加にも寄与。

地区の概要

◆ 位置
岐阜県飛騨市



◆ 活用した地域資源
森林資源（広葉樹）

◆ 事業実施主体
飛騨市

◆ 主な取組団体等
広葉樹のまちづくり円卓会議、
㈱飛騨の森でクマは踊る、
ひだ木フトプロジェクト

◆ 事業実施期間
H29～R1

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆人材育成を目的としたスイスのフォレスターによる「天然林施業研修会」を開催

◆通常チップにしかならない小径広葉樹の積極搬出により安定的なストックを確保し、木工職人等が活用できる仕組みを整備

【スイス・フォレスターによる研修会】

【天然林施業と小径材搬出の様子】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆市内木工作家等の作り手と連携し、小径広葉樹材を使った新たな商品開発及び販売を進める「ひだ木（ギ）フト」プロジェクトを展開

◆取組を全国に伝え、市外の関係者（主に広葉樹の使い手）との新たな関係性をつくる「広葉樹のまちづくりツアー」を開催

【ひだ木フトプロジェクト小径材による商品群】

【森と地域の在り方を考える広葉樹のまちづくりツアー】

取組の成果（取組前 → 取組後）

◆飛騨市産材を活用した新商品の開発　８点（玩具、食器、時計等）

◆木製品の加工販売事業者の売上額　5百万円 → 55百万円（H30実績）→ 109百万円（R1実績）

◆林業にかかる雇用増加人数（素材生産者）　７人（森林組合による雇用）

（山村活性化支援交付金）地域に残る在来作物を軸とした魅力発信と新商品の開発　【静岡県静岡市（しずおかし）】

取組のポイント

◆豊かな自然に恵まれた静岡市の山間地「奥静岡」＝「オクシズ」地域で、古くから栽培されている個性豊かな在来作物（蕎麦、雑穀等）に着目し、生産者の顔が見える流通体制の確立や新商品の開発を実施。

◆マスコミ等民間企業と連携を図りながら、在来作物の魅力や地域の取組について情報発信を行うことにより、生産者やその背景にある自然・歴史・文化への関心が高まり、地域内への誘客や販売促進に繋がっている。

地区の概要

◆ 位置
静岡県静岡市

◆ 活用した地域資源
蕎麦、雑穀、らっきょう等の在来作物

◆ 事業実施主体
静岡市

◆ 主な取組団体等
オクシズ在来作物連絡協議会

◆ 事業実施期間
H28～H30

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆地域における在来作物の調査・検証を実施し、生産を拡大や維持する作物等を整理

◆オクシズ在来作物（蕎麦、雑穀、にんにく、じゃがいも等）を紹介する冊子の作成や在来作物を活かした新商品の開発を実施

【地域で守り作られてきた在来作物の紹介記事】

【雑穀を使用したクッキー】（在来おやつ）

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆在来作物を扱った「オクシズ在来市場」を市内及び首都圏で年複数回開催。販売促進とあわせ、商業施設等との連携を深めた

◆取組を通して、生産者・加工所等が自ら在来作物の魅力をPRするイベントを開催するなど、関係者の意識向上に繋がった

【オクシズ在来市場】（静岡市ｴｽﾊﾟﾙｽﾄﾞﾘｰﾑﾌﾟﾗｻﾞ）

【オクシズの夕べ】（市内飲食店にて）

取組の成果（取組前 → 取組後）

◆在来作物を活用した商品の開発　１品　→　５品（雑穀クッキー、らっきょう漬け、黒にんにく 等）

◆在来作物を取り扱う新規店舗の創出　４件（山村地域３件、静岡市内１件）

◆在来作物関連商品の販売額　30万円　→　530万円（新規作付面積：約30a）

（山村活性化支援交付金）木材を活用したグッズ製作や勉強会等開催による木材利用促進事業　【愛知県豊田市（とよた）】

取組のポイント

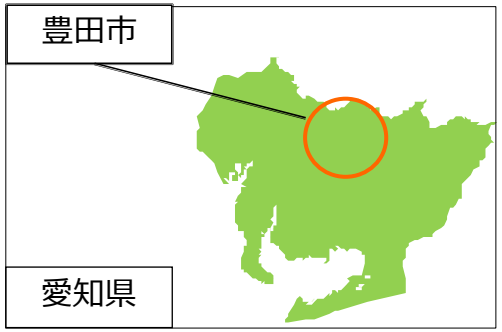
◆地域材へのニーズ・マーケットを意識した商品開発や市内施設（子育て支援センター等）への地域材利用のコーディネート提案・施工等を行うための担い手育成等

◆豊田市産材の需要拡大のため、市民向け、行政職員や民間企業向け各種勉強会の開催、会員企業等と共同で商品開発や展示会・イベント出展を行い、地域材ＰＲを徹底

◆会員（96者）向けの情報誌「ウッディーラージャーナル」の作成、配信。新規開発商品の木製グッズのＥＣサイト等の体制整備による販売促進

地区の概要

◆ 位置
愛知県豊田市



◆ 活用した地域資源
豊田市産木材

◆ 事業実施主体
一般社団法人ウッディーラー豊田

◆ 主な取組団体等
林業・木材産業事業者、豊田森林組合、デザイン事務所、建築設計事務所　等

◆ 事業実施期間
H30～R２

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆マーケットを意識し、徹底的なターゲティングをもとに商品開発（保育用パーテーション、木製チェア、御朱印帳等）

◆市内施設（子育て支援センター等）への木材利用コーディネート提案・施工業者紹介

【開発した御朱印帳】

【市内施設コーディネート事例】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆市民向け森林ツアーや木材メンテナンス勉強会、行政職員や民間企業向けの木材活用術勉強会等、地域材のＰＲ活動

◆展示会・イベントへの出展（年４回）

◆取組実績・情報誌の作成、配信（年２回）

◆ＥＣ体制の確立

【展示会出展の様子】

【森林ツアーのようす】

取組の成果

◆豊田市産材を活用した新商品の開発　２品（H29）→１４品（R2末）

◆豊田市産材ブランド流通額　０千円（H29）→67,345千円（R2）

（山村活性化支援交付金）地域資源（農産物・水等）を活用した商品開発と販売促進　【愛知県岡崎市（旧額田町）】

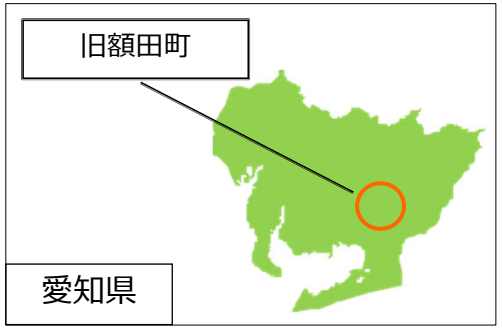
取組のポイント

◆既存商品を体系的に整理するとともに地域資源の賦存状況の調査を実施。既存商品の改良を進めつつ、地域資源を活用した新商品を開発

◆資源毎に部会を結成し、部会単位（かき氷、鮎、米等）での話合いを活発に実施。個々の事業者による点の取組から、地域としての販路開拓やビジネス化を図る面の取組へと、地域全体の所得向上・雇用増大につながる取組に発展

地区の概要

◆ 位置
愛知県岡崎市（旧額田町）



◆ 活用した地域資源
水、鮎、米、ヨモギ、木材、茶

◆ 事業実施主体
岡崎市ぬかたブランド協議会

◆ 主な取組団体等
岡崎森林組合、JAあいち三河、岡崎市ぬかた商工会　等

◆ 事業実施期間
H30～R２

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆ヨモギ等の薬草について、高品質製品とするための栽培・製造方法の確立、ヨモギ茶・入浴用製品等の開発

◆地元間伐材を用いたテント、ベンチ、テーブル、自転車ラックの受注生産の実施、薪ボイラーを利用した足湯キットを制作し、市内開催の各種イベントへ出展

【ヨモギの入浴用製品】

【自転車ラック】

【薪ボイラーを使った足湯キット】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆地元農産物と地元の水（氷）を使用し、各店独自のかき氷を期間を統一して提供

◆鮎と米（ミネアサヒ）、地元農産物等を使用した鮎めし等のメニューの提供、観光客向けに鮎料理提供店の案内図を配布してPR。

◆かき氷街道・鮎めし街道を設定しＰＲ。その他地元催事、商談会を通じた販路拡大

【かき氷街道・鮎めし街道ポスター】

【商談会への出展】
（東京ビッグサイト）

取組の成果

◆農林水産物の新商品・リニューアル商品の販売額　０円（取組前）→　41,042千円（R3実績）

◆農林水産物の新商品・リニューアル商品数　11品（岡崎茶、自転車ラック、よもぎスパークリングティー等）

◆かき氷街道でのかき氷販売数（5ヶ月間、９店舗）０杯（取組前）→ 6,271杯（H30実績）→　19,198杯（R3実績）

（山村活性化支援交付金）「特用作物・紫草（ムラサキ）」を活用した化粧品開発と販路拡大　【滋賀県東近江市（ひがしおうみし）】

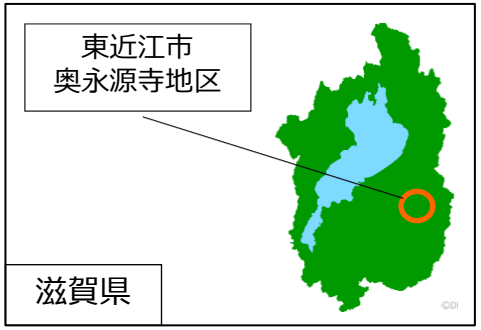
取組のポイント

◆絶滅危惧種で東近江市の花である「紫草（ムラサキ）」の根、「紫根（シコン）」を活用した化粧品を開発。原材料は、耕作放棄地を開墾し、無農薬・有機栽培にこだわって栽培。

◆山の恵みマッチング商談会において、自然派の化粧品等を扱うバイヤーと商談が成約し、百貨店や専門店へ販路を拡大することにより取引量・販売額が大幅にアップ。

地区の概要

◆ 位置
滋賀県東近江市



◆ 活用した地域資源
紫根（シコン）
（特用作物「ムラサキ」の根）

◆ 事業実施主体
山村活性化協議会

◆ 主な取組団体等
（株）みんなの奥永源寺

◆ 事業実施期間
H27～H29

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆冷涼な気候に恵まれた奥永源寺地域において、耕作放棄地を利用した「紫草」の栽培に新たに成功

◆オーガニックコスメ市場の中では割安の、平均単価3,450円/本が好評

【紫根（シコン）】

【化粧品の開発】
（シコンコスメ）

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆山の恵みマッチング商談会において、ミニブースを出展。「無農薬・有機栽培」が評価され、 自然系化粧品バイヤーと成約

◆百貨店等での出展販売を継続的に実施し、経験を重ねることで、受注機会が増加

【展示・商談会場】
（東京ビックサイト）

【ミニブース出展】

取組の成果

山の恵みマッチング商談会（H31年2月）による成果

◆シコンコスメの取引量　2,040本（商談会前）　→　10,000本　（R元年9月迄実績）

◆シコンコスメの販売額　760万円（商談会前）　→　3,726万円（　　〃　　）※対前比490%

（山村活性化支援交付金）京北米（けいほくまい）を活用したブランド化の取組と消費拡大　【京都府京都市（きょうとし）】

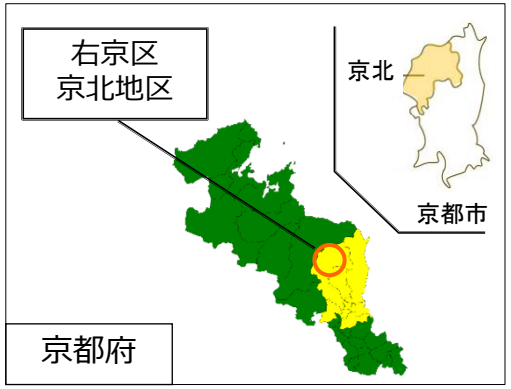
取組のポイント

◆京都市中心部から車で約１時間の農山村「京北地域」で生産する米のブランド化を目指し、「京北ブランド」の在り方や販路拡大・魅力発信方法などのブランド戦略について検討。

◆ブランド米の名称（京都京北米）やその認定基準等を作成し、良品質米を差別化するための環境調査や作業拠点となる施設（京北ブランド米工房）の試験的な導入を行うとともに、市内学校給食への提供など消費拡大への取組を実施。

地区の概要

◆ 位置
京都府京都市



◆ 活用した地域資源
米

◆ 事業実施主体
京都京北・農山村未来かがやき創生推進協議会

◆ 主な取組団体等
(公財)きょうと京北ふるさと公社
(株)八百一の郷、京都市

◆ 事業実施期間
H30～R2

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆米づくりの基礎となる水田の水温・気温・土壌等の栽培環境のほか、食味値の計測を行うなど、ブランド化に向けた特徴を分析整理

◆ブランド米の認定基準やロゴマーク等を作成するとともに、良品質米を処理するための拠点を試験的に導入

【京北ブランド米工房】
（リースによる試験拠点）

【ブランド名やロゴマークの作成・PR】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆教育委員会と連携し、京都市立の全小・小中学校に、学校給食として京北ブランド米を提供し消費拡大・魅力発信への取組を実施

◆試験拠点におけるコスト・規模・体制等の課題を整理し、本格運営に向けた経営計画案を策定（R2予定）

【学校給食と連携した
消費拡大・魅力発信】

【栄養教諭と協同でお米づくりの教材を製作】

取組の成果

◆ブランド化推進のためのモデル拠点「京北ブランド米工房」の設置　※食味検査、低温貯蔵、精米等を実施

◆「京北ブランド米」生産量　０ｔ　→　30ｔ（R1実績）

◆「京北ブランド米」を味わう日の創設（R2.1.24：市立163校（約67,000人）の学校給食へ提供）

（山村活性化支援交付金）耕作放棄地を活用したエゴマの有機栽培と商品開発　【兵庫県新温泉町（しんおんせんちょう）】

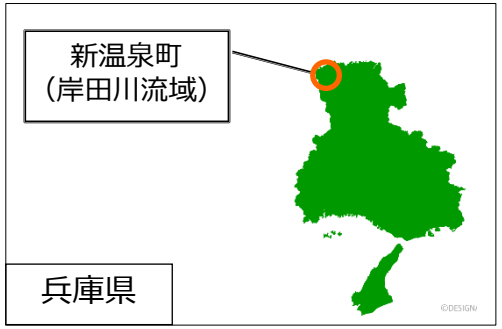
取組のポイント

◆過疎化により発生していた耕作放棄地を活用し、町内のエゴマ研究会が貝殻を利用した有機肥料による高品質化を目指すエゴマ栽培方法を導入。

◆町産エゴマを活用した商品開発とブランド化に取り組み、全国規模のイベント・商談会への出展、マスコミへのPRを積極的に行うなど販売促進を進めることにより、エゴマ生産者の雇用数増加に繋がった。

地区の概要

◆ 位置
兵庫県美方郡新温泉町



◆ 活用した地域資源
エゴマ

◆ 事業実施主体
岸田川流域地域協議会

◆ 主な取組団体等
新温泉町えごま研究会

◆ 事業実施期間
H28～H30

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆エゴマの品質向上及び収穫量増大を目的としたエゴマ栽培研修を実施

◆エゴマの高品質化を目指した、貝殻の利用による有機栽培とブランド化・商品開発

【品質向上等を目的とした栽培研修】

【新商品の開発】
（無農薬・無添加の食用エゴマ油）

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆首都圏等で行われる大規模商談会等への出展により販路を拡大

◆マスコミを活用した商品PR・販売促進活動を展開（町産エゴマを活用した商品）

【商談会への出展】
（アグリフードEXPO大阪）

【新商品のPR】
（日本海新聞）

取組の成果（取組前 → R1実績）

◆エゴマを活用した新商品の開発　３品（食用エゴマ油、エゴマ石けん「Ｅソープ」 等）

◆エゴマ商品の販売額　０円　→　93万円（町内の道の駅「浜坂の郷」、民宿、ネット通販　等）

◆エゴマ栽培の雇用数（エゴマ生産者）　０人　→　32人（作付面積約80a）

（山村活性化支援交付金） 伝統工芸の継承と新商品開発・ブランディング

【奈良県黒滝村（くろたきむら）】

取組のポイント

◆継承が危ぶまれていた村の伝統工芸（吉野杉透かし彫り及び水組木工）の継承者育成（５名）。

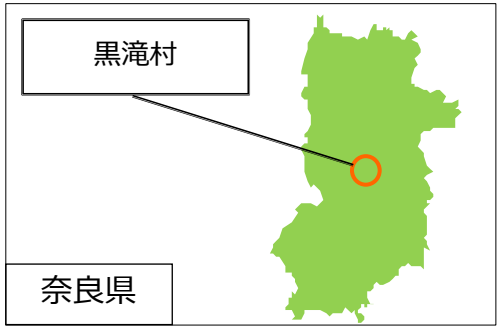
◆「木工集団スギイロ」を立ち上げ、伝統技術を用いた新商品開発や「黒滝村ブランド」の確立・普及

◆村内事業者と共同で商品開発を進めるほか、細かなニーズに柔軟に対応して製品受注

◆オリパラ公認ショップや大都市圏のインテリアショップとの契約等、積極的な販路開拓

地区の概要

◆ 位置
奈良県吉野郡黒滝村



◆ 活用した地域資源
伝統と技、吉野材

◆ 事業実施主体
黒滝村

◆ 主な取組団体等
黒滝村森林組合・年輪工房
スギイロ・山口木工店

◆ 事業実施期間
R1～R3

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆黒滝村産業の掘り起こし、地域事業者から聞き取り調査を実施

◆伝統工芸「透かし彫り工芸品」「くろたき水組木工品」技術を工芸士が若者に指導中

【地域産業の調査】

【人材育成】
伝統工芸品「技」の継承

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆首都圏等市場調査を経て、伝統工芸を活用した新商品の開発を実施

◆商談会・展示会において積極的に販路開拓を行った結果、オリパラ公認ショップや東京駅にあるインテリアショップと契約

【新商品開発】
透かし彫り

【商談・販路開拓】

取組の成果

◆伝統工芸を活用した新商品の開発　8品　透かし彫りプレート、水組木工スツール他（Ｒ２実績）

◆伝統工芸を活用した商品の販売額　700千円　→　960千円（Ｒ２実績）※対前比137%

◆木材加工等における雇用数　１人　→　３人　（Ｒ３実績）

（山村活性化支援交付金）ぶどう山椒を活用した商品開発及び販路拡大

【和歌山県有田川町（ありだがわ）】

取組のポイント

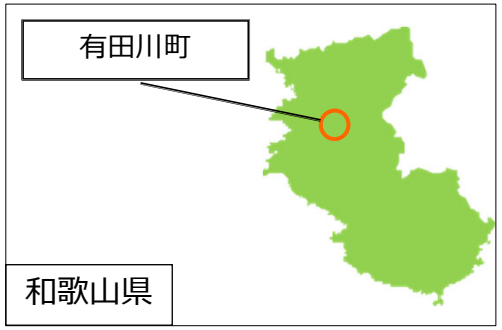
◆ぶどう山椒の発祥地、かつ、一大産地でありながら、後継者不足等により産地消滅の危機に直面しており産地振興策がスタート

◆認知向上を目的に、農家・大学・町等が連携し、新たな用途の商品を開発。商品売上の一部は苗木購入費に充てられるなど、産地を未来へつなぐサイクル形成

◆農家等住民が主体的に未来の産地を意識しはじめ、外部との交流機会の創出、就農希望者の案内等、民間による産地振興も開始。本プロジェクトは、農山漁村のポテンシャルを引き出す優良事例として「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に認定（令和４年度）

地区の概要

◆位置
和歌山県有田郡有田川町
（旧石垣村、岩倉村、五村、八幡村、安諦村）



◆ 活用した地域資源
ぶどう山椒

◆ 事業実施主体
有田川町

◆ 主な取組団体等
農家、有田中央高等学校、有田川町、龍谷大学　等

◆ 事業実施期間
Ｒ２～Ｒ４

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆山椒の実だけでなく、未活用の部位の軸を活用した商品開発

◆開発商品であるカレーを「冷凍」から「レトルト」化し、より流通しやすい形状へ改良

◆地元高校が幼木の生育調査や研究を実施

【ぶどう山椒の軸からできたｱﾛﾏｵｲﾙ】

【幼木の生育調査】

【レトルトカレー】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆ミシュラン3つ星料亭等の販路獲得により、ぶどう山椒のブランド価値が向上

◆地元農家等による交流人口・就農希望者等の受入体制整備とあわせた就農フェアやインターンシップ制度の実施

◆本プロジェクトが全国レベルで評価され、認知度向上

【就農希望者の受入】

【ﾃﾞｨｽｶﾊﾞｰ農山漁村の宝認定】

取組の成果

◆新商品の開発　11品（カレー、餃子、アロマオイル等）

◆新商品の販売額　549千円（R2）→2,030千円（Ｒ３）※対前比370%

◆ぶどう山椒生産農家への新規就農数　０人　→　３人

（山村活性化支援交付金）広葉樹の有効活用による山村活性化

【島根県浜田市（旧安城村）】

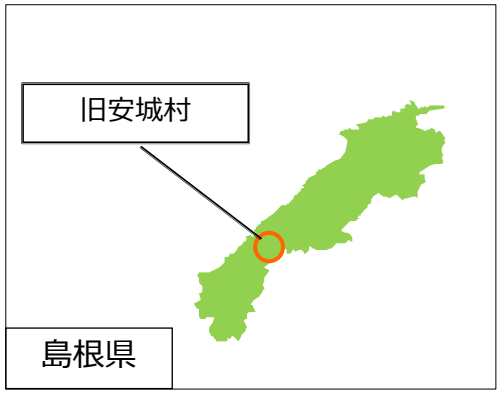
取組のポイント

◆貴重な地域産広葉樹材を、チップ・燃料材以外の活用を目指し、付加価値を高めた商品の開発及び受注品の製作

◆伐採-製材-加工-販売を地域内で完結させるため、技術者も養成しながらの6次産業化の体制づくりの取組み

地区の概要

◆ 位置
島根県浜田市（旧安城村）



◆ 活用した地域資源
地域産広葉樹（ホオ、ブナ、ミズメ、ナラ、トチ等）

◆ 事業実施主体
浜田地域広葉樹活用協議会

◆ 主な取組団体等
（公財）島根県西部山村振興財団

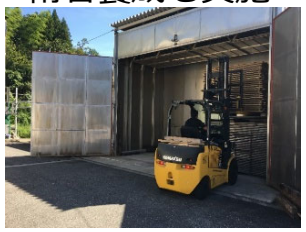
◆ 事業実施期間
R1～R3

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆性質・特性の異なる様々な地域産広葉樹材を製材・乾燥。板材の塗装（色別、オイル、自然塗料等）のサンプリング試験を実施

◆これら取組に必要な木材加工に係る技術者養成も実施



【広葉樹の人工乾燥】

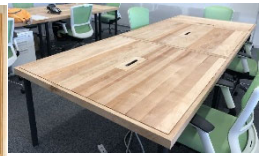
【板材塗装試験】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆職人的な高度な技術と時代に応じたデザインを活かした商品開発・製造・販売

◇ 学校備品受注製品
◇ オフィス家具
◇ フローリング、壁材等インテリア用木製タイル

【受注品：卒業写真額】



【オフィス家具】

【タイル製品】

取組の成果

◆広葉樹を活用した新商品の開発　9品（木製タイル製品、オフィス家具、フローリング等）

◆協議会における製品の販売額　0円（H30実績）　→　3,917千円（R３実績）

◆協議会における木工職の雇用数　0人　→　3人（島根県西部山村振興財団）

（山村活性化支援交付金）大豆，米を活用した商品開発による地域活性化　【広島県竹原市（旧田万里村）】

取組のポイント

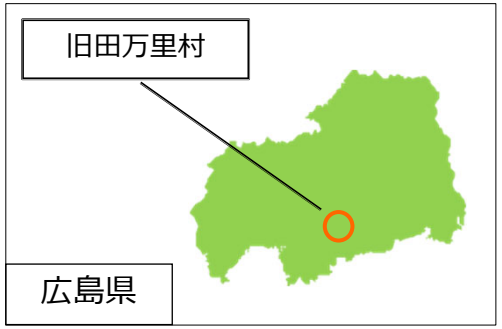
◆耕作放棄地を活用した農地再生を目指し、無農薬、化学肥料不使用の大豆、米等を栽培

◆専門家に助言を受け大豆、米を活用した高付加価値な商品開発

◆本事業を契機に、老朽化や利用者の減少が続いていた地元の公共施設をリフォームし新たな拠点をつくり、移住者の受け入れを促進

地区の概要

◆ 位置
広島県竹原市（旧田万里村）



◆ 活用した地域資源
大豆、米

◆ 事業実施主体
田万里「有機あぶらの里」プロジェクト協議会

◆ 主な取組団体等
一般社団法人　The CAMPus
（農業コンサルタント）
農ライファーズ株式会社

◆ 事業実施期間
R1～R3

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆近隣市町の無農薬栽培農家の視察なども行いつつ、無農薬、化学肥料不使用の環境と人に配慮した農作物を栽培

◆専門家からのアドバイスにより米粉、大豆を活用した商品を開発

【米粉ドーナツ】

【豆乳クリームチーズ】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆田万里地域や開発した商品の魅力を発信するためのWEBページやECサイトを構築し、日々の活動をSNSで発信

◆地元に設立された株式会社に事業を継承し、老朽化公共施設のリフォームによる新たな拠点をつくり、若者向けの移住促進の事業などを展開

【ホームページ】

【新たな拠点】

取組の成果

◆大豆、米等を活用した開発商品数：大豆商品 2品（豆乳クリームチーズ、豆乳マヨネーズ）
米粉商品 1品（米粉ドーナツ）

◆新商品の販売額：　0千円（H30実績）　→　1,003千円（R３実績）

◆新規雇用者数　：　3人（協議会で雇用。事業継続後，株式会社社員として継続雇用）

（山村活性化支援交付金）「木頭（きとう）すぎ」を活用した商品開発をメーカーと共同実施　【徳島県那賀町（なかちょう）】

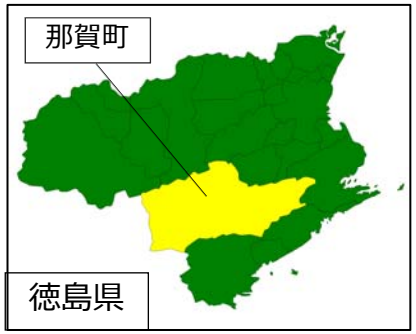
取組のポイント

◆これまで活用されていない、または有料で処分していた未利用木材を販売・利用する体制（那賀町版「木の駅」など）づくりに取り組んだことで資源が循環し、新商品の開発や雇用の確保などに繋がった。

◆開発した商品がウッドデザイン賞などを多数受賞。山の恵みマッチング商談会では、アウトドア総合メーカーと商談が成約し、同社通販サイトへの商品掲載及び同社運営のキャンプ場へ導入する食器類の共同開発に繋がった。

地区の概要

◆ 位置
徳島県那賀郡那賀町



◆ 活用した地域資源
木頭すぎ、未利用材

◆ 事業実施主体
木頭すぎバイオマス利活用推進協議会

◆ 主な取組団体等
森林組合、町、林業関係団体

◆ 事業実施期間
H27～H29

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆那賀町版「木の駅」プロジェクトでは、山林所有者が集積場まで運搬した木材を協議会（現在は森林組合）が買い取り、町内の木材加工業者に販売し、製品に活用することを推進

◆地域ブランド材である「木頭杉」を職人が丁寧に加工し、美しい木目を活かした商品や食品衛生法に適合し耐久性のある塗料を用いた安全・安心で長期使用が可能な付加価値のある商品を製作

【木の駅に集まる未利用材】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆ウッドデザイン賞入賞を伴い、環境に配慮した製品が集まる「エコプロ2017」への出展等により、一連の製品の評価が高まった

◆山の恵みマッチング商談会において、(株)モンベルと成約し同社通販サイトへの商品掲載や木製食器の共同開発など販路を拡大

【エコプロ出展】
（木頭杉サーフボード）

【那賀町産「木頭杉」使ったBBQプレート】

取組の成果

◆地域材（木頭すぎ）を活用した新商品の開発：10品（木粉簡易トイレ、サーフボード等）

◆ウッドデザイン賞やクールジャパンアワード2019を受賞するなどの、高評価が製品人気を後押し

◆木製食器類は、アウトドア総合メーカーの運営するキャンプ場への導入に向け共同開発を開始

（山村活性化支援交付金）里芋を活用した特産品の開発

【高知県津野町（つのちょう）】

取組のポイント

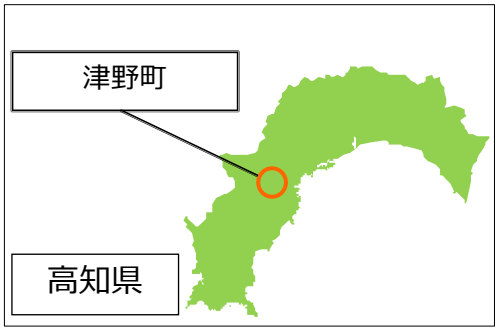
◆昔から地域で「タイモ」と呼ばれ親しまれてきた「里芋」の規格外品を主体に加工商品開発を検討

◆地域の合意形成のためのワークショップの開催、商品の安定生産のための里芋の生産量の増産に取組

◆地域全体で新商品開発。デザイン性を重視した統一ロゴマーク等の採用。ふるさと納税返礼品に採用

地区の概要

◆ 位置
高知県高岡郡津野町



◆ 活用した地域資源
里芋

◆ 事業実施主体
ツノール商品開発推進協議会

◆ 主な取組団体等
(有)津野町ふるさとセンター
（地域の直売所）
(株)満天の星
（地域の加工業者）

◆ 事業実施期間
H30～R２

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆商品開発の合意形成のため、生産・加工施設等の関係者によるワークショップを繰り返し開催（計23回）

◆デザイン性を重視したロゴマークや商品パッケージの作成

【ワークショップ】

【ロゴマーク】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆PRポスターを作成し広報活動に活用

◆ふるさと納税の返礼品として採用

【PRポスター】

【展示会への出展】

取組の成果

◆新商品の開発　4品（里芋のスープ、アヒージョ、グリーンカレー、ペースト ）

◆新商品の販売額　776千円（R2実績）

（山村活性化支援交付金）大豆や新規作物ビーツを活用した商品開発と販路拡大　【熊本県あさぎり町】

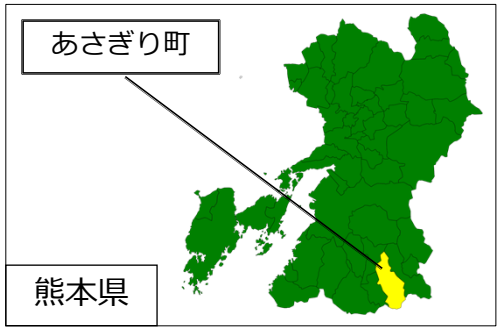
取組のポイント

◆一日の寒暖差が大きい盆地特有の気候を活かし、九州地方ではほとんど栽培されていない、寒い地域での栽培に適した「ビーツ」に着目し、九州産ビーツの栽培面積の拡大・加工品の開発に取り組み。

◆以前から取り組んできた大豆の栽培・加工品の製造販売に加え、新規作物等を組み合わせることにより、年間を通じて安定的に農産物や加工品の販売を行うことで、農家の新たな収入源の確保や担い手の育成を目指す。

地区の概要

◆ 位置
熊本県球磨郡あさぎり町



◆ 活用した地域資源
大豆、ビーツ

◆ 事業実施主体
あさぎり町

◆ 主な取組団体等
(有)あさぎり町ふるさと振興社
ＪＡ（大豆部会、梨部会）

◆ 事業実施期間
H30～R2

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆地域内の農家組織を対象に、マーケティングやブランディングに関する勉強会を開催

◆包括協定を締結している町内の南稜高等学校と協同で大豆を活用したスイーツ等を開発

【販路開拓や高付加価値化に関する勉強会】

【高校生とコラボ開発】
（制服をイメージした包装）

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆第３セクターの有限会社が中核となり、販売や情報発信のハブ的な役割を担うことにより、地域の農業者及び商業者を牽引

◆首都圏等の展示・商談会にも積極的に参加し、商品の長所・短所の把握、磨き上げを実施

【Webサイトによる情報発信・販売体制の整備】

【山の恵みマッチング出展】
（東京ビッグサイト）

取組の成果

◆加工商品開発　８品（ビーツ水煮・赤汁(顆粒)・赤玉(錠剤)）、SOYクッキー、にんにく味噌 等）

◆山村特産品の売上額　1,910万円（取組前）　→　2,630万円（R1実績）　※対前比138%

◆新規雇用数　２人（R1実績）※(有)あさぎり町ふるさと振興社（開発された加工品の製造受託等）

（山村活性化支援交付金）クリ、獣皮（鹿皮）を活用した商品開発及び販路開拓　【大分県佐伯（さいきし）市】

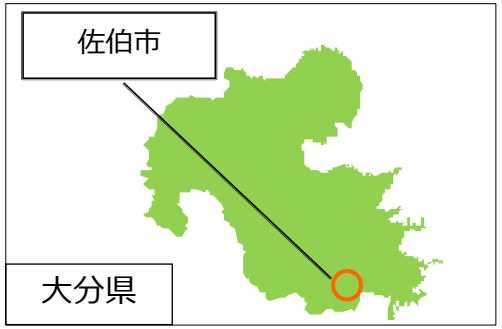
取組のポイント

◆地域特産のクリ（県内３位の栽培面積を有す）を活用し、栗ペーストの加工技術の習得と栗ペーストを使用した既存商品のブラッシュアップや新商品開発

◆駆除されたシカの有効活用として、廃棄処分されていた獣皮を活用した新商品開発及び販路開拓

地区の概要

◆ 位置
大分県佐伯市



◆ 活用した地域資源
クリ、獣皮（未利用資源）

◆ 事業実施主体
宇目地域活性化協議会

◆ 主な取組団体等
宇目ひよこの会（宇目農林産物加工グループ）、佐伯市猟友会、道の駅宇目、さいき農林公社　等

◆ 事業実施期間
H30～R2

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆和栗ジャム（既存）の販路拡大を図るためニーズ調査を実施。商品改良と新商品開発により、シリーズ展開化

◆廃棄処分されていた獣皮について、軽量・柔軟・通気等の特性を活かした新商品開発

【栗製品製造研修】

【宇目和栗ジャム(３種)】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆東京ビッグサイトでの見本市に、和栗ジャムシリーズ・獣皮（鹿革）製品を出展

◆見本市出展を契機に「ななつ星in九州」乗客プレゼントにジャム採用。ジャム・鹿革はJR九州の観光列車乗客向け販売でも好評

【商談会の参加】
（東京ビッグサイト）

【観光列車の乗客に販売】

取組の成果

◆クリ・獣皮を活用した新商品の開発　９品（クリ：和栗ジャムなど５品、獣皮：ﾏｳｽﾊﾟｯﾄなど４品）

◆販売額　　クリ：154千円 → 962千円　獣皮：0千円 → 117千円（R２実績）

◆特産品加工事業における新規雇用者数　0人　→　3人

（山村活性化支援交付金）「栗、柚子」を活用した商品開発とブランド化

【宮崎県小林市（こばやしし）】

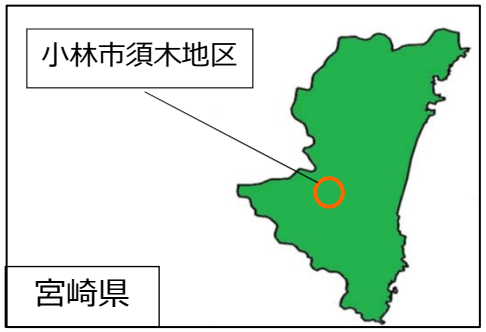
取組のポイント

◆地域で栽培が盛んな栗・ゆず等の農林産物をブランド化し、生産者と加工業者で連携した付加価値の高い商品開発及び既存商品のリニューアルを実施。

◆関係者が一体となってブランド協議会を設立。高齢化で弱体化した各加工グループを一本化し、遊休施設（給食センター）を加工場として再利用することにより、大量生産に対応できる組織強化を図った。

地区の概要

◆ 位置
宮崎県小林市須木地区



◆ 活用した地域資源
栗、ゆず、椎茸

◆ 事業実施主体
小林市

◆ 主な取組団体等
栗・柚子振興協会、すき物産協会(加工業者）、観光業者、商工会、小林市

◆ 事業実施期間
H28～H30

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆圃場調査、収穫量・出荷先の把握を行い、優良圃場をモデル園に指定。栽培方法の統一に向け施肥の分析、土壌試験を実施

◆有識者の助言を組み入れた商品開発、県内外の消費者への試食調査を行い、ターゲットを明確にした商品開発を実施

【栗の剪定講習会】

【ブランドロゴの作成】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆市担当者が県内TV番組（じゃがじゃがサタデー）に出演してのPRが奏功し、県内外に「すきブランド」を周知

◆TV番組出演で得た知名度を活かし、県内外の大型量販店で定期的に物産販売を展開することにより新たな販路を開拓

【TV番組出演による
ブランドのＰＲ】

【試食販売による販売促進】
（イオン宮崎店）

取組の成果（取組前 → H30実績）

◆栗･柚子の商品開発：23品（「栗入り元気パン」等新商品が10品、リニューアル商品が13品）

◆商品ブランド化における新規雇用人数　０人　→　8人（洋菓子工房、(有)すき特産など）

◆開発商品の販売額（物産展販売額）　4,295千円　→　6,343千円　※対前比148%

（山村活性化支援交付金）伝統の美郷栗を活用した地域活性化 ～徹底的に市場を意識した商品開発とブランディング～

【宮崎県 美郷町（みさとうちょう）（旧南郷村.西郷村.北郷村）】

取組のポイント

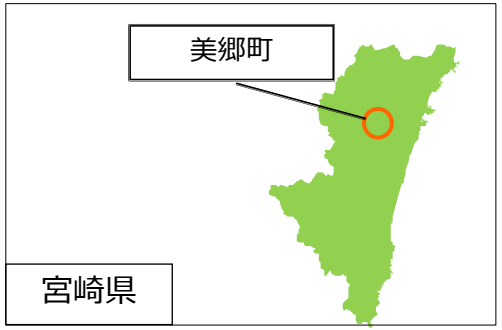
◆古くから家庭で一般に食されてきた地域伝統の「美郷栗」及びその産地としての認知度向上と販売力強化が課題

◆流通関係者からの助言、大都市圏でのテストマーケティング等を踏まえた新商品開発・既存商品改良

◆美郷栗自体のイメージアップ・ブランディングに向けた動画作成やHP構築、事業者間の連携による販売強化、大都市圏での販路開拓

地区の概要

◆ 位置
宮崎県東臼杵郡美郷町
（旧南郷村.西郷村.北郷村）



◆ 活用した地域資源　　栗

◆ 事業実施主体
美郷町を栗で元気にする協議会

◆ 主な取組団体等
製菓事業者（5社）、美郷町観光協会、ＪＡ日向

◆ 事業実施期間　Ｒ１～Ｒ３

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

◆新商品開発・既存商品改良に際しては、県の商品開発アドバイザー（流通関係者）の助言や、テストマーケティングを踏まえて検討

◆高級化・日持ち・バリエーション増を狙った新商品の開発及びサイズ・量・パッケージデザイン変更等による既存商品の改良

【東京でのテスト販売】

【高級路線の商品開発】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

◆美郷栗自体のブランディング、イメージアップを図るためのHP、イメージ動画作成

◆事業者間で連携し、各社商品詰め合わせギフトや商品カタログ作りなどによる販売強化

◆テストマーケティングを契機とした大都市圏での販路開拓に向けた営業

【美郷栗ブランディング動画】

【美郷栗ギフトボックス】

取組の成果

◆新商品開発・既存商品改良：12品（新商品として栗の和菓子 等　６品開発）

◆直売所における栗商品の販売額　6,870千円（R1実績）→7,839千円（Ｒ３実績）※対前比114%

◆生産・加工・販売に関する雇用数　０人　→　３人（美郷町観光協会、製菓会社（２社））